

令和 6 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 6 年 6 月 7 日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が 11:21(−2cm)、満潮は 04:15(191cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	12:36-13:40	09:46-10:59	08:20-09:24
調査時間(分)	64	73	64
天候	晴	曇	晴
気温(℃)	28.1	25.2	24.4
風向	南	南東	南
風速(m/sec)	1.7	3.0	1.2
備考	干潟は沖合まで広範囲に干出していた。沖合に複数の人の立ち入りが見られた。	最干潮前から干潟は広く干出。船の往来が多い。	鳥の島周辺の海上はうねりが大きかった。公園側で養浜工事がされていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位 3 種	カワウ(1850 羽) ウミネコ(216 羽) コアジサシ(26 羽)	カワウ(241 羽) コアジサシ(31 羽) アオサギ(13 羽)	カワウ(1817 羽) アオサギ(21 羽) コサギ(6 羽)
備考	・ホウロクシギ、オオセグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ等、重要種として 9 種を確認。 ・シギ・チドリ類はホウロクシギ 2 羽が干潟で採餌、コチドリ 1 羽が干潟上空を飛翔。 ・干潟でカワウとウミネコが休息、サギ類は主に採餌。 ・コアジサシが海上を飛翔。 ・水鳥の多くは沖合の三枚洲にいて、満ち潮と共にカワウなどが調査範囲内に飛来した。 ・ミサゴ 1 羽が沖合の杭で休息。	・シロチドリ等、重要種として 6 種を確認。 ・2 種のシギ・チドリ類が確認された。コチドリは護岸や干潟で採餌、シロチドリは干潟で採餌。 ・干潟でカワウとカルガモが休息、サギ類とウミネコが採餌。 ・コアジサシは合計 31 羽を確認。浅瀬でダイビングを繰り返し採餌するほか、杭で休息する個体も見られた。森ヶ崎水再生センター屋上では 6 月 9 日に 7 巣の営巣が確認されている。 ・杭上でミサゴが休息。	・コチドリ等、重要種として 6 種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場 39 巣、鳥の島 10 巣で合計 49 巣。巣内に大きな雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を確認。個体数は合計 1817 羽。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギの 3 種を確認。アオサギは幼鳥 1 羽が見られたが、第六台場で繁殖したと断定できる情報は得られなかった。 ・シギ・チドリ類は、鳥の島でコチドリが休息、キョウジョシギが採餌。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和6年							重要種 選定基準				
				6月							文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RDB2023 (区部)	
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園							
				範囲 内	沖合	合計		第六 台場	鳥 の 島	公 園 側					合計
1	カモ	カモ	カルガモ	13		13	12		3		3				
2			スズガモ	4		4			2		2			留	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	1850		1850	241	1220	594	3	1817				
4			ウミウ						1		1				
5	ペリカン	サギ	アオサギ	4	7	11	13	9	10	2	21				
6			ダイサギ	2		2		1		1	2			NT	
7			コサギ	6	3	9	5	2		4	6			VU	
8	チドリ	チドリ	コチドリ	1		1	3		1		1			CR	
9			シロチドリ				2						VU	CR	
10		シギ	ホウロクシギ	2		2						国際	VU	CR	
11			キョウジョシギ						2		2			VU	
12		カモメ	ウミネコ	15	201	216	4							留	
13			オオセグロカモメ		22	22							NT		
14			コアジサシ	2	24	26	31						VU	EN	
15	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1	1						NT	EN	
16		タカ	トビ					2			2			NT	
17	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ				5								
計6目9科17種				10 種	6 種	12 種	10 種	5 種	7 種	4 種	10 種	0 種	1 種	5 種	11 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

- *1 文化財保護法：特天=特別天然記念物
- *2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種
- *3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足
- *4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧ⅠA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出していた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(シギ・チドリ類)

干潟で採餌するハウロクシギ 2 羽と、上空を飛翔するコチドリ 1 羽が確認された。ハウロクシギは種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に指定されている。コチドリは東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に指定されている。



ハウロクシギ

○出現種(カモ類)

干潟で飛翔・休息するカルガモ 13 羽と、休息するスズガモ 4 羽が確認された。スズガモは怪我などの理由により越冬地に留まっていると思われる。本種は東京都レッドデータブックで留意種に指定されている。



カルガモ



スズガモ

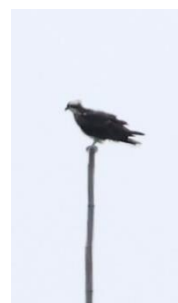
○出現種(コアジサシ)

干潟上空で2羽、沖合で24羽が確認された。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。



○出現種(ミサゴ)

沖合の杭にとまって休息する1羽が確認された。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でカワウ 1850 羽の群れとウミネコ 15 羽が休息していた。また、アオサギ、ダイサギ、コサギが汀線付近で採餌・休息・飛翔していた。オオセグロカモメは沖合の三枚洲でのみ確認され、すべて休息していた。



カワウの群れ

アオサギ

<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

干潟が広く干出していた。



○出現種(コアジサシ)

コアジサシは 31 羽が確認され、浅瀬でダイビングを繰り返し採餌する群れや、魚をくわえて飛翔する個体、つがいと思われる 2 羽が並んで杭にとまる様子が見られた。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば、森ヶ崎水再生センターにおけるコアジサシの営巣は 5 月 26 日から始まり、6 月 9 日に 20 羽の成鳥と合計 7 巣が確認されている。<https://littletern.hatenablog.com/entry/2024/06/09/230419>



ホバリングする群れ



杭の上で休息する

○出現種(シギ・チドリ類)

護岸や干潟で採餌するコチドリと、干潟で休息するシロチドリが確認された。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば、6 月 9 日に森ヶ崎水再生センターでコチドリ 2 巣が確認されている。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA 類(CR)に指定されている。



コチドリ

シロチドリ

○出現種(ミサゴ)

杭にとまり休息するミサゴ 1 羽が確認された。時々飛び立ち、周辺を採餌しながら飛翔したが、ハンティングは行わなかった。



ミサゴ

○干潟利用状況

カワウ 232 羽が水面から干潟に上陸して休息、ほかにカルガモが休息、サギ類とウミネコが採餌していた。



干潟で休息するカワウの群れ

アオサギ

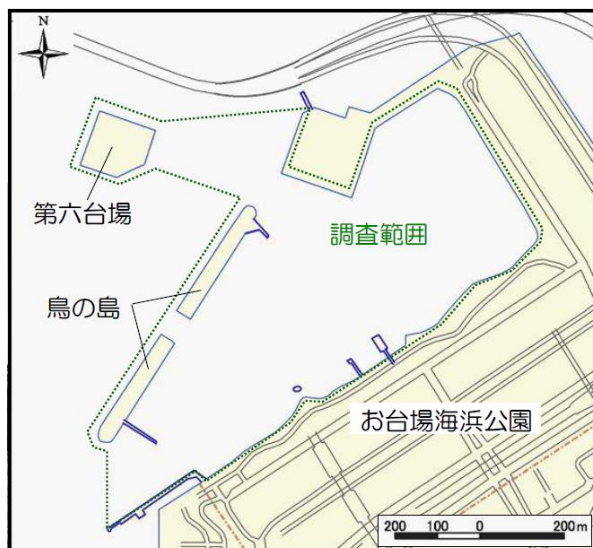
カルガモ

ウミネコ

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(ウ類)

カワウは 1817 羽が確認された。営巣数は 5 月よりも減少して、第六台場で 39 巣、鳥の島で 10 巣、合計 49 巣が確認された。第六台場の護岸や樹林、鳥の島に巣立った幼鳥が多く見られ、巣内に雛の姿も見られた。ウミウは鳥の島の護岸で、昨年生まれの若鳥 1 羽が休息していた。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認された。アオサギは幼鳥 1 羽も含まれるが、営巣は確認できなかった。東京都レッドデータブックでダイサギは準絶滅危惧 (NT) に、コサギは絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。



○出現種(シギ・チドリ類)

鳥の島の護岸で休息するコチドリ 1 羽と、採餌するキョウジョシギ 2 羽が確認された。キョウジョシギは東京都レッドデータブックで絶滅危惧 II 類 (VU) に指定されている。



○出現種(カモ類)

鳥の島周辺で飛翔・休息するカルガモと、岸辺で休息するスズガモ 2 羽が確認された。



＜その他＞

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 38 羽と雛 9 羽が確認された。抱卵中と推定される成鳥が数羽見られたが、営巣数をはっきり確認することはできなかった。このほか、京葉線の高架にとまるカワウ 130 羽と、アオサギ 2 羽が確認された。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ成鳥と雛



ウミネコ成鳥と雛

＜トピックス＞

－三枚洲の干潟を利用する鳥－

葛西人工渚に到着した時点では、沖合に三枚洲の干潟が広がり、カワウ、カモメ類、ホウロクシギ、スズガモなど、ほとんどの水鳥が沖合に分布していた(写真上)。その後、満ち潮で沖合の干潟が狭まってくると、カワウやホウロクシギ、スズガモは調査範囲内の東なぎさに移動してきた(写真下)。一方、ウミネコとオオセグロカモメは大半が沖合に留まったままで、調査範囲内には少数のウミネコだけが飛来した。



三枚洲で休息するカワウの群れ（手前は調査範囲である東なぎさの干潟）



三枚洲のホウロクシギ



三枚洲から飛来するカワウの群れ